



広報 **えびな**

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

*この広報は再生紙を使用しています。



うちに描いた金魚の出来具合を話し合う（えびな南高齢者施設で）

海老名市社会福祉協議会ワークキャンプ

夏休みに福祉の心を実感

7月25日から3日間、市内3カ所の福祉施設で18人の中学生たちが、高齢者の方々のお世話を体験しました。ワークキャンプと呼ばれるこのボランティア教室は、高齢者の福祉について理解を深め、社会参加を経験してもらうために、海老名市社会福祉協議会が毎年夏休み期間中に行っているものです。今回は、えびな南高齢者施設（杉久保）でワークキャンプを行った、中学生たちの姿を紹介します。

中学生18人が体験学習

「以前から福祉の仕事に興味があった」ボランティア活動をしてみたい」。ワークキャンプでは、そんな動機で参加した中学生たちが、施設に入所・通所している高齢者の方々と一緒に、楽器を鳴らして童謡や流行歌を歌ったり、ゲームや工作を通じて交流を深めました。

少子化・核家族化の影響で高齢者と過ごす機会が少ないせいか、うちに金魚を描く作業も、最初は少し緊張気味でも、描いたうちわをお互いに見せ合いながら、「おばあさん、これ、上手に描けたかな?」「うーん、もう少し色が淡い方がいいんじゃないかね」「失敗した!ぼくのはとても金魚に見えない」と言葉を交わすうち、徐々に笑顔が見られるようになりました。

日程には、体の動きが不自由な方のお世話も含まれています。折川穰さん（1年生）は、食事前に手を洗ってあげようとしたが、腕が少し動いただけ。そこで自分の手をよくぬらして、やさしくこすってあげました。「今までは、一人で何でもできるお年寄りしか知らなかった。いろいろなお年寄りが出て、その一人ひとりに合ったお世話をすることが、とても大切なんだなと思いました」。

また、学校での勉強について話したという井上裕美さん（3年生）は、「しっかりと前を向いて生きる」。困ったときにはこの言葉を思い出してね」と、相談相手のように接してもらったそうです。「そのおばあさんは、別れ際に握手しながら涙ぐんでいました。また来て欲しいと思ってくれたのかもしれない」。

「孫のような若い人たちが話相手で楽しい。こんなに笑ったのは久しぶりだよ」と、ある高齢者の方は話してくれました。ワークキャンプを終え、「歩くのにじやまなすをどけてあげただけで、とても感謝されたので驚いた。ささいな物が、お年寄りにとって大変な障害になるんだな」などと感想を話し合う中学生たちの表情が、少し頼もしく見えた夏休みの一コマでした。